

## 平成31年度（2019年度） 県立牛久栄進高等学校自己評価表

目指す 学校像	IoTやAI等をはじめとする技術革新やグローバル化の一層の進展，更には人口構造の変化など，社会環境の変化が激しさを増す時代において，それらに柔軟に対応できる力を育む。同時に，豊かな人間性と自主自律の態度を身に付け，進取の気概あふれる創造性豊かな青年を育成する。		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>普通科単位制高校に改編した平成10年以降，「活力ある進学校づくりー単位制のメリットを生かし，主体的に学習する生徒の育成ー」を一貫して組織目標として継承，「活力ある進学校」，「個に応じた学習指導」，「自主独立の人づくり」を中期的目標として，教職員と生徒との信頼関係をもとに学校全体が一つになって取り組んできた。その結果，国公立大学に毎年100名前後の現役合格者を輩出するようになり，昨年度は現役国公立大学合格者数87名であった。これは，生徒一人一人の進学希望実現に向け，単位制の特長を最大限生かして，きめ細かな教科指導・進学指導に取り組んできた結果と考えられる。単位制改編後の飛躍的な進学実績の躍進を評価するとともに，今後も単位制の特性を生かした様々な取組みを積極的に推し進め，生徒一人一人の進学希望を実現していきたい。</p> <p>また，規範意識を高める教育を継続して進めるとともに，さらに豊かな心を育てる教育や安全・防災教育にも力を注ぎ，生徒の自立に向け，取り組んでいかねばならない。</p>	<p>教科指導 ー授業第一主義～授業は真剣勝負～ー</p>	<p>ア 単位制のメリットを生かした教育課程の編成及び1分を大切にす授業の実践により，生徒の学力向上を図り個々の生徒の進路希望実現に繋げる。また教員研修の奨励とともに，授業研究・授業改善をより一層推進し，主体的・対話的で深い学びの実践，論理的思考力の育成等，教育改革に十分対応した授業実践・教科指導に努める。</p> <p>イ すべての教科が連携し，「チーム栄進」として学校全体で協働体制を構築し水準の高い教育活動の実践に努める。</p>	
	<p>特別活動 ー部活動や生徒会活動の充実及び積極的参加の奨励ー</p>	<p>ア 学校生活における様々な活動をとおして自主的精神を養い，行動力を培うとともに，より良い人間関係の形成を図ることが今後の社会を担う「人材育成」に不可欠と考え，生徒の特別活動への積極的参加を奨励する。</p> <p>イ 生徒が主体的に参画できる学校行事の充実に努め，生徒の能力を十分に生かした活力ある学校づくりを推進するとともに，愛校心の醸成を図る。</p>	
	<p>生徒指導 ー社会的責任を自覚し，良識ある行動のとれる生徒の育成ー</p>	<p>ア 学校生活全般に於いて生徒の規範意識の高揚と道徳的実践力の向上を図り，自律的で調和のとれた生徒を育てる。</p> <p>イ 他者を尊重する態度を養い，生命の尊さを認識させるとともに，安全教育を重んじて生徒の危機察知及び危機回避能力を高め，事故やいじめの未然防止に努める。</p>	
	<p>進路指導 ー生徒一人一人の特性を生かした丁寧な指導ー</p>	<p>ア 教員一人一人が進路指導力を高め，生徒の進路希望を高い次元で実現できるよう全教員で研鑽に努める。</p> <p>イ 各年次や各教科と「e-Top推進室」の連携を強化し，難関大学への進路希望実現に向けて確実で有益な情報提供及び学習指導の充実に努める。</p>	
<p>国際理解教育の推進 ー国際交流と海外派遣ー</p>	<p>ア 国際交流事業を通じて視野を広め，世界各国への理解を深めることでグローバル社会で活躍する人材を育成する。</p> <p>イ 今年度は豪州オレンジ市への派遣を実施し，自国を見直しつつ異文化を理解し尊重する国際協調の精神を育てる。</p>		

		保護者及び地域社会との連携 ー積極的な情報発信と 地域に開かれた学校づくりの推進ー	ア 学校HPや「栄進ホットメール」、各種メディアを活用し、本校の教育活動や学校情報を積極的に発信する。 イ 保護者と学校が常に連携を密にし、生徒の健全育成と生徒の夢の実現に向けて共に協力・支援していく。 ウ オープンハイスクールや各種説明会、中学校訪問をとおして本校についての理解を更に深めていただくよう努める。 エ 地域との連携を強化して地域活動等にも積極的に協力し、地域社会の期待に応え、信頼される学校づくりに努める。		
評価項目	具体的目標	具体的方策		評価	次年度(学期)への主な課題
教科指導	学力の増進と生徒の家庭学習の充実を図る。	生徒が目的意識を持って自主的、意欲的、継続的に学習する態度を育成する指導の工夫改善を図る。			
	学習指導法の改善に努める。	各教科、各年次における週末課題や、生活・学習の記録「進路手帳」等の活用について連携し、家庭での学習を確立させる。			
	観点別学習指導及び観点別学習状況評価の研究に努める。	生徒一人一人の能力・進路に応じて、少人数授業・TT授業・小テスト・学力向上ゼミ等を実施する。また、3年間を見通した指導計画に基づき、指導法や教材の選択などを工夫・研究する。			
教 科	国 語	基礎学力の定着と発展的学習のための指導の充実を図る。	科目担当者間の連携を密にし教授資料や授業方法の共有化を図ると共に、授業の改善を図る。		
		自ら学ぶ力の強化を図る。	生徒に適した教科書教材を精選すると共に、これからの求められる学力を視野に新しい教材を検討する。		
			家庭学習を習慣化するための課題や小テストを定期的実施する。		
			自ら学ぶ力を強化するために記述力育成に向けた指導を行うとともに、問題集や参考書を精選し使用する。		
	地 歴 公 民	生徒の基礎学力向上を目指した授業の工夫を行う。	小テストなどを適宜実施して、基礎的・基本的事項の定着を図る。また、視聴覚教材の開発やIT機器の利用などを通じて、授業内容の充実を図る。		
		多面的なものの見方と思考力の育成を図る。	科目担当者間の連携を密にして情報交換を行うとともに、史料や各種統計資料の積極的活用、テーマ学習への取り組みなどを通し、社会的・歴史的・地理的事象に対する主体的分析力・考察力を涵養する。		
	数 学	学力の向上を目指した指導を充実する。	課題提出や小テストを定期的に行い、学習習慣の確立を図る。		
		個に応じた授業の充実を図る。	科目担当者の連携を密にし、授業の進め方や学力・論理的思考力の定着度合の分析を行い、課題を明確にして指導に生かす。		
	理 科	日常の授業を通じて科学的な観察力・思考力を育成する。	TTや問題演習の時間を充実させ、主体的に取り組むことのできる授業や課外を実践する。		
		基礎学力の充実を図り、センター試験のみではなく、2次力までの養成をはかる。	実験や実習を効果的に取り入れ、生徒の興味・関心を高めると共に科学的な思考力の育成を図る。		
	保 健 ・ 体 育	授業内容の充実を図る。(体育)	教科書を中心に基礎学力の徹底的な育成を目指し、相互の授業参観・考査問題研究を積極的に行う。さらに入試問題の研究をすすめる、教員の指導力を高める。		
		体育授業における事故防止に努める。	生徒の体力向上及び個人技術の段階的な向上を図り、ゲームを工夫する。		
授業内容の充実を図る。(保健)		準備運動の徹底を図り、安全・健康に留意して行動する態度を育てる。施設・設備の安全確認を励行し、事故防止に努める。			
		視聴覚教材を積極的に活用した授業を展開し、健康の保持・増進のための実践的な能力を育てる。			

教 科	芸 術	基礎的・基本的な内容の確実な定着を図ることにより、創造的な能力を育てる。	可能な限り個々に応じた丁寧な指導を目指す。		
			各種コンクールへの出場・出展を促すとともに、入賞できるような効果的指導を目指す。		
		生徒一人一人が、実践的・体験的な諸活動に主体的に取り組むことにより、芸術を愛好する心情を養う。	さまざまなジャンルの音楽会・展覧会等を紹介する。		
			新聞記事等から豊富な話題を提供する。 展示コーナーの活用を図る。		
	家 庭	基礎的・基本的な知識と技術を理解させ、実践的な能力の向上を図る。	最新の情報を取り入れながら興味・関心のもてる教材を取り入れ、理解しやすい授業を工夫し展開する。		
			実験・実習・視覚教材などの体験学習を多く取り入れ、ノート提出や課題など点検を通して学習態度の育成を図る。		
		作品の完成・提出により達成感を持たせる。	実験・実習などを通して各種技能・知識の向上を図る。		
	英 語	英語の学力を向上させる。	教科書の予習復習を中心とした学習法を徹底させ、4技能のスキルアップを図る。		
			サイドリーダー、週末課題、長文問題集、文法問題集、単語集等、副教材を吟味し質的量的充実を図る。		
			定期考査結果、模試結果をその都度分析し活用する。更に、GTECや英語検定の受検指導を強化し、生徒の進路実現に寄与する。		
		授業研究の徹底を図る。	定期的に授業研究を実施することによって、指導技術の研鑽を図る。 教科会等を通じて、年次内・年次間の連携を密にし、教材の共有や中・短期的教科指導法を見直し改善していく。		
	情 報	生徒の情報活用能力の育成を図る。	学校行事と連携した学習課題を題材とし、生徒の関心を高め、情報の収集・処理・発信などの実習を行う。		
情報モラルやセキュリティなど、情報機器や情報通信ネットワークを活用していく上で配慮すべきことを考えさせる。					
教員の授業実践力の向上を図る。		校外の研修を通して、優れた実践事例等に学ぶことに努める。			

教 務	授業時間の確保に努め、授業力の向上を図る。	授業交換や填補を確実に行うとともに、行事の精選・日程の工夫等により、授業時間の確保に努める。		
		授業・指導法に関する研究協議、公開授業等を実施し、授業研究週間等での相互参観を積極的に行いながら、授業の質の向上と優れた技術の共有化を図るとともに、教科・年次・分掌間の連携を基にした組織的な指導体制の構築に努める。		
		単位制のメリットを生かした教育課程編成の工夫を行う。	生徒の進路実現のための効果的な教育課程編成や履修パターン等の内容を検討し、新教育課程入試に対応できるよう改善を図る。また、新学習指導要領導入に向けて教科横断的な指導や探究型の指導の方向性を検討する。	
	地域社会に対して本校教育活動等の情報発信等に努める。	学校ホームページやインフォメーション（学校案内）等の内容を充実させる。また、Eishinオープンハイスクール、学校公開等を通して、積極的に本校の情報提供やPRを行う。		
特別活動	生徒会活動のさらなる活発化を図る。	学校行事に積極的に参加させることで、委員会活動やHR活動の活発化を図り、生徒が自主的に考えて行動できるようにする。		
	部活動への積極的参加を図る	大会、コンクール等における各部の実績内容を定期的にPRすることで、部活動参加率を上げ、生徒の自主的・実践的態度を育てる。		

生徒指導	生徒の規範意識を高めるとともに、基本的な生活習慣の育成に努める。	全職員の共通認識のもと、頭髮・服装指導をあらゆる機会を通じて継続的に実施する。 登下校指導やマナーアップキャンペーンにおいて、生徒の主体的な参加・活動を促す。また、登下校指導への保護者の参加・協力を促進する。		
	自他の生命を尊重する精神を養うとともに、豊かな心を育成する。	通学路において、定期的に登下校指導を実施するとともに、危険箇所の把握、情報提供を実施し、事故の未然防止に努める。 HRや「道徳」、交通安全講話・いじめ防止教室・薬物乱用防止教室等の学校行事をとおして、自他の人権、生命の尊重及び危機管理意識を養う。いじめの問題の克服に向けて、計画的に未然防止・早期発見につとめる。		
進路指導	生徒一人一人の希望進路実現を学校全体で支援する。	「進路の足跡」「進路手帳」「進路便り」などの発行、及び受験関係図書の有効な活用を図るとともに、生徒との個別面談を充実させる。		
	国公立大及び難関私立大への進学率向上を学校全体で支援する。	先進校視察、Fine-system、Kei-Naviなどによる学力分析、進路検討会、進路講演会などを行い、大学入試改革、大学入学共通テストに対応する。e-Top推進室が各年次・教科と連携し、「e-Topゼミ」「難関大スタディーツアー」等を実施し、難関大学を目指す生徒の支援・育成を図る。		
保健厚生	生徒自らによる心身の健康管理能力を養う。	疾病予防や早期発見のために健康診断と事後指導を確実に行う。 心身の健康状態の把握に努め、健康相談、助言・指導を行う。		
	生徒の学校生活での福利厚生及び校舎内外の環境美化を計画的に推進する。	日本スポーツ振興センターおよび奨学生の事務取扱を円滑に行う。 パン・牛乳販売の連絡を円滑に行う。 校内の安全点検や清掃の徹底、及び校舎内外の環境美化運動を通して生徒の美化意識を高揚させる。		
	防災意識を高め非常時に適切な行動がとれるようにする。	緊急避難体制を確立させ、地震を想定した避難訓練を実施する。		
図書館	蔵書資料の充実を図る。	年度当初に各教科等の購入希望図書を把握し、速やかに対応する。さらに授業での利用を意識した蔵書資料の拡充を行う。生徒向け図書については、図書委員の意見を積極的に取り入れ、時宜に合わせて購入していく。また新刊情報収集や小論文のトレンド把握に努め、蔵書資料の充実を図る。		
	図書館利用の増加を図り、生徒の学習活動の支援をする。	読書や学習に必要な書籍の情報を提供するとともに、図書委員との打ち合わせを密にし、生徒を引きつける書籍の展示方法を工夫する。また読書スペースや学習室として利用しやすい環境整備に努める。		
	視聴覚機器の整備及び円滑な利用に努める。	視聴覚機器の整備・充実を図り、学校行事等での放送機材の円滑な運用に努める。		
渉外	会議・委員会を円滑に進める。	係分担を明確にし、分かりやすい資料で会議が円滑に進むよう十分な事前準備をする。		
	保護者が参加しやすい活動を展開する。	会員が参加しやすい研修や、興味ある内容を盛り込んだ講座を企画するために各種委員会運営を円滑に行う。		
教育相談	カウンセリングを実践する。	問題を抱える生徒の早期発見に努める。 生徒・保護者・職員に対する、スクールカウンセラーを活用した相談活動を行う。		
	特別支援教育の充実を図る。	特別な支援を必要とする生徒に対してより適切な支援を行う。 ニーズの度合いに応じてケース会議、職員会議、あるいは職員研修を実施し、共通理解を深める。		
1年次	基本的な生活習慣を確立させ、規範意識を養う。	遅刻指導や提出物の期限を守らせる指導を通して、時間厳守の精神を養う。 服装指導、登校指導、挨拶の励行などを通して、規範意識の向上を図る。 家庭との連絡を密にし、生徒が抱える問題の早期発見や問題行動の防止に努める。		
	学習習慣を確立させ、基礎学力の充実をはかる。	予習・復習を徹底させることで、授業を大切に、授業に真剣に参加する姿勢を養う。 週末課題や小テストを計画的に実施し、基礎学力の定着を図る。		

		校内の考査や校外模試の結果を分析して、教科指導や進路指導に反映させる。		
	自己理解をうながすことで、進路に対する意識を高め、将来を見据えた進路選択ができるようにする。	Classiを利用した学習記録・振り返りを通して、生徒自ら現状を把握させ、自主的・計画的に学習する姿勢を養う。また、グループでの探究学習の取り組みを模索する。 大学・研究所訪問や職業人講話等の進路学習への参加を通して、自己理解を深め、進路意識を向上させる。		
	特別活動や道徳を通して、集団における自己の在り方を見つめさせ、思いやりの心を養う。	年次通信、進路説明会、保護者面談などによって保護者との連携を密にし、進路情報の共有を図る。 部活動や学校行事に積極的に参加させ、協調の精神とたくましい心を養う。 CESタイム（道徳）を通して、他者の生き方に触れ、自己を見つめることで、視野を広げ、思いやりと奉仕の精神を育成する。		
2年次	授業の充実と生徒の学習意欲を高める工夫により、基礎学力の更なる定着を図る。	予習・復習を徹底させ、小テストや追試を計画的に実施することで、授業を大切にし、授業に真剣に参加する姿勢を養う。 「進路手帳」を利用した面談やClassiを利用した学習記録・振り返りを通して、生徒自らの現状を把握させるとともに、自主的・計画的に学習する姿勢を養う。 毎週の課題やゼミの計画的な実施を通じて、課外学習を促進し、基礎学力の定着を図る。		
	大学研究、および学部・学科研究を深めることで、進路意識を高め、将来を見据えた進路設計ができるようにする。	様々な進路学習への参加、およびオープンキャンパスへの参加と報告書の作成を通して、自己理解を深めるとともに大学について知識を広め、進路意識を向上させる。 小論文学習や模擬志望理由書の作成を通じて、自己分析力を向上させ、進路意識の高揚をはかる。 進路説明会の実施、保護者面談などによって保護者との連携を密にし、家庭における進路意識の向上と、情報の共有を図る。		
	特別活動や総合学習の時間等を通して、集団における自己の在り方を見つめさせ、充実した高校生活の実現を図る。	部活動や学校行事に積極的に参加させ、協調の精神とたくましい心を養う。 実り多い修学旅行とするために事前・事後学習を充実させ、また修学旅行を通して集団行動のなかでの協調性や連帯感を醸成する。 「道徳プラス」の実施により、道徳的判断力や道徳的实践意欲と態度を身につけさせる。		
3年次	学力の向上と伸長を目指す指導と、個々の生徒にあわせた進路指導体制の充実を図る。	授業の充実を図り、塾・予備校に頼らずとも学力を伸ばせる環境を整え、生徒の視線を学校へ向かせる努力を全体で遂行する。 年次内で生徒の進路情報を共有して生徒理解に努め、個別面談等を通して個に応じた進路情報を提供する。 難易度に応じた様々な課外を実施することにより生徒の能力に応じた演習の場を提供し、個々のニーズに応え、多様な進路実現の場を提供する。 保護者対象の進路研修会を実施し、保護者への進路情報の提供と生徒情報の共有に努める。		
	高校3年間の総括として、全生徒が充実した学校生活を送ることができるように十分な支援を行う。	最高年次としての誇りと責任感を意識させて、学校行事への積極的参加を促す。また、特別活動や部活動等への参加を通じて、協調精神とリーダーシップを育成する。 高校生らしい服装・容儀の指導を徹底し、自立を促す指導を行う。 個別面談や保護者との連絡を密にして、生徒が抱える問題へのきめ細やかな対応を心がける。		

評価基準：「4」大変よく出来ている 「3」よく出来ている 「2」やや不十分 「1」不十分 「0」わからない0